市民公開講座「女性の命をつなぐ」

正しい知識で子宮守ろう

山梨県から子宮頸がんで亡くなる女性をなくそうと始めた山梨日日新聞社・山梨放送企画「やまなし子宮頸がん予防啓発キャンペーン」（県、県医師会、県産婦人科医会など協力・協賛）はこのほど、昭和・アピオ甲府で日本産婦人科医会が部会事業研修会に合わせ、市民公開講座「女性の命をつなぐ」を開いた。子宮頸がん死亡者ゼロに向け、専門医が検診と子防ワクチンの最新事情などを解説した。2人の講師の講演内容などを紹介する。

HPVワクチンの有効性と安全性

WHOが積極的な接種推奨 メリットとリスク考え判断

山梨大学医学部産婦人科学准教授　端　晶彦氏

はし・あきひこ氏
山梨大学医学部附属病院医療福祉支援センター長。1986年山梨医科大学医学部卒。山梨赤十字病院、米・テキサス大学MDアンダーソンがんセンター分子病理学部などを経て、2001年から山梨大学医学部産婦人科教室に復職。08年11月から現職。日本婦人科腫瘍学会腫瘍専門医。日本臨床細胞学会評議員、日本婦人科腫瘍学会評議員など。滋賀県出身。

副反応問題で「定期接種」の勧奨が中断しているHPVワクチンについて考えてみたいと思います。ヒトパピローマウイルス（HPV）は、皮膚に見られる良性のイボをつくる原因ウイルスとしてその存在が確認され、1983年には子宮頸部がん組織の中に特定の型のHPV-DNAがあることが発表され、その後の感染メカニズムの解明や予防ワクチンの開発へとつながりました。現在までに150種類以上の型のHPVが見つかっています。

前がん病変を予防

HPVは発見された順に番号が付けられています。子宮頸がんを発症するハイリスクHPVと呼ばれるのは16、18、52、58型など約15種類あるといわれます。子宮頸がんの70%の発症に関与するとされる16、18型をターゲットにしたワクチンが認可されています。

性交渉などで子宮頸部の粘膜に傷が付くことで感染が起こると考えられていて、感染は性交経験のある女性なら誰でも感染する可能性があります。従って、HPV予防ワクチン接種は性交渉前の児童・生徒が望ましいと考えられています。

ワクチンは、外面をウイルスに似せたそっくりさんをたくさんばらで合成してつくったもので、DNA を持たないので感染力はなく、接種することで血中にたくさんの中和抗体をつくります。ウイルスが体内に入ってもこの抗体がウイルスの表面について感染を阻止します。不活化ワクチンですので回数が接種しないと十分な中和抗体ができないため、6カ月間に3回打つ必要があります。

現在、国内で認可されているワクチンは2価と4価で、ともに16、18型がターゲットです。有用性を調べた海外のデータによると、16型と18型に関連した前がん病変の予防効果は81・100%と極めて高いことが証明されています。ワクチンによる予防効果は次代の接種が満遍なくできれば、現在、国内で年間約1万人といわれる子宮頸がん発症者のうち約6700人が発症しなくて済み、年間9500人といわれる死亡者数から2350人が亡くならずに済むといった効果が期待されます。

しかし、このワクチンは4月に国が接種を強く推奨する「定期接種」に追加されたものの、週刊誌などで接種による副反応が取りざたされ、6月から「勧奨」が中断されています。

どのワクチンにも副反応はあります。副反応とは、ワクチン接種後に発生するワクチンとの因果関係が否定できない事象のこと、軽度な副反応は接種した部位の痛みや腫れ、かゆみ、疲労感、発熱などで重篤な副反応は極めて少ないのですが存在します。加えてこのHPVワクチンは国内初の筋肉注射。痛みを伴う上、多感な思春期の女子が対象となることから国内外とも先神頻度が多くなることが報告されています。しかし、現在とは違う部位に出現する慢性的な疼痛の症例と思われます。

救済制度の充実も

複合性局所疼痛症候群（CRPS）という疾患が、日本をはじめ海外でもHPVワクチン接種後に発症報告があります。CRPSは骨折、打撲などの外傷や注射などの医療行為に続いて起こる痛みや運動障害、発汗異常などの症状を引き起こす疾患です。接種や負傷部位の組織損傷とは不釣り合いな強度、期間で持続する痛みが特徴です。英国での安全評価では、これは注射という行為によるものと関連する報告はないとされました。CRPS症例はほかのワクチンや献血後に起こるケースもありますが、発症頻度は極めて低く、2000万～800万接種に一人ぐらいとされています。

HPVワクチンは現在、世界120カ国以上で承認されていて、WHO（世界保健機関）は、日本における慢性疼痛の症例の調査は必要としながらも積極的な接種を推奨しています。また、国際婦人科連合という世界的に大きな産婦人科団体も各種データを総合し、副反応はほかのワクチンと比べても突出していないとコメントしています。

CRPSや慢性疼痛に悩む本人やご家族の心身の痛みにはお見舞いを申し上げるとともに、補償や救済制度のさらなる充実、適切な治療が速やかに受けられる仕組みの構築が必要と考えます。世界的にHPVワクチンは有効で、安全性は高いと考えられていますが、不安な方は、勧奨が再開してから接種するのもいいかもしれません。これを機に、メリットとリスクをよく考えての接種をお勧めします。

ワクチン接種が推奨されている年齢の国際比較

山梨大学医学部調べ

ディスカッション

性交の低年齢化 正しい性教育を

県産婦人科医会の吉田孝二副会長と森潭孝行理事を座長に開かれたディスカッションでは、講演した端晶彦准教授、産婦人科医会の高橋勝寛医師、検査の必要性やワクチン接種勧奨の中断を受けて接種途中で見合わせているケースへの対応などについて意見が交わされた。

この中、端准教授は、1回あるいは2回接種途中で次の接種を迷っているケースに対し、3回打つことに意味があり、たとえ半年を過ぎても接種することで抗体ができるので、納得して接種するのが望ましいです」と返答。また、子宮頸がんが20代、30代に増えていることを指摘に、寺本医師から子どもたちへの正しい知識の下での性教育の必要性が提案され、性教育の啓発活動の大切さも議論された。